

## はじめに

知識基盤社会化やグローバル化がすすむなか、他国・異文化との共存や国際協力の必要性が求められ、子どもたちが自らの可能性を信じて未来を切り拓くための資質・能力として「生きぬく力」を育むことがますます重要になってきました。そのため、21世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るためには、「集団活動や体験活動を通して人間形成を図ろうとする教育活動の充実」と同時に、「小中高の発達段階を踏まえた系統性のある特別活動の持続と発展」が重視されています。そこで、本書はこの観点より、教職課程の学生が生徒指導を行う上での必要な知識の習得と共に教育実践現場でも役立てることができるよう、また、現職の教師が生徒指導を進める上で実践の場に役立てることができるよう、特別活動に関する基礎的・基本的な事柄を取り上げて作成しました。

本書ではまず、望ましい集団生活において、社会へ参与する力や人間関係を築く力を育てる特別活動の意義や特質、そして、歴史的 position 付けや歴史的変遷について解説しています。特筆すべき点は改訂にあたり、平成29年小学校・中学校、平成30年高等学校の新しい学習指導要領の基本的な柱となる考え方や「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」を踏まえていることです。次に、実際の教育現場における学級活動、生徒会活動、学校行事の実践例を踏まえ、これらの活動を進めるための指導計画の在り方について説明しています。この指導計画を生徒の実態にあわせて作成するために、おさえておきたい発達段階などの人間形成を支える諸理論もまとめています。最後に、情報化社会にあわせて求められるICTの活用や、グローバル化のすすむ今日に必要とされる多文化共生教育といった新たな特別活動の展開に

についても述べています。これらを実現可能で教育効果の高い特別活動の構想のためのエッセンスとし、特別活動を含む教師という仕事を、実践的に、多角的な視点から俯瞰できる力を身に付けてほしいと願っています。

そして、本書が教職を目指す学生だけでなく、独自に教師力を高めようとする現役の先生方の自学に役立てていただけると本望です。末筆になりましたが、本書の作成にあたり、筆者らの願いを短期間の中での確かなご助言で支えてくださった大学教育出版代表取締役 佐藤守氏、編集 中島美代子氏に御礼を申し上げます。

2019年2月

東京情報大学教職課程 原田 恵理子

基礎基本シリーズ③  
最新 特別活動論 改訂版

---

目次

はじめに	1
第1章 人間形成と特別活動の教育的意義	9
1 特別活動という教育活動	9
2 特別活動の教育的意義	11
第2章 特別活動の歴史の変遷	13
1 戦前の特別活動の歴史	13
(1) 近代教育の創始と特別活動	13
(2) 課外活動にみる特別活動の源流	14
(3) 学校行事を中心とした歴史的展開	15
2 戦後の特別活動の歴史	
— 学習指導要領における特別活動の変遷 —	18
第3章 特別活動の目標と内容	22
1 現行学習指導要領での小学校における特別活動の目標と内容	22
2 現行学習指導要領での中学校・高等学校における 特別活動の目標と内容	26
3 新学習指導要領の基本的な柱となる考え方	29
(1) 新学習指導要領の目指すもの	29
(2) 主体的・対話的で深い学びによる授業改善	31
4 改訂の趣旨と要点	33
(1) 特別活動改訂の考え方	34
(2) 改訂のポイント	35
第4章 学級活動の実践	39
1 学級活動の目標及び内容	39
(1) 小学校における内容	39
(2) 中学校における内容	41
2 学級活動の実践	42
(1) 老人ホームを訪問しよう	43
(2) 訪問計画の立案	44


(3) 喜ばせるために——「踊り」と「合奏」	45
[コラム] 学級活動と他の教科・領域との関連	46
(4) 張り切って練習する子どもたち	47
(5) みどり荘訪問	48
(6) 予定外の出来事	49
3  子どもたちの自主的な学級活動のために	50
第5章 生徒会活動の実践	52
1  目標と内容	52
(1) 生徒会活動の目標	52
(2) 児童会活動と生徒会活動の内容	53
2  指導計画作成と内容の取り扱い	57
(1) 指導計画作成にあたっての配慮事項	57
(2) 生徒会活動の内容の取り扱い	61
3  実践例	64
第6章 学校行事の実践	67
1  学校行事の目標と内容	67
2  中学校における「大運動会」の実践	68
(1) 生徒が主体の校庭大運動会	69
(2) 新入学1年生の「スタンツ」	70
(3) 2年生手作りの「ソーラン」	71
(4) 3年生集大成の「行進」	72
(5) 教師の抱える不安	73
(6) 生徒の変容	74
3  学校行事の活用	76
4  中学校における合意形成に基づく修学旅行の実践	78
(1) 修学旅行実行委員会	78
(2) ある学級での話合い	79
(3) 合意形成	80
(4) 事後指導	82
(5) 評価と生徒の変容	82

5	学校行事に向けた学級活動指導案の作成及び解説	83
6	学校行事に向けた学級活動指導案作成ワークシート	87
第7章	特別活動を進めるための指導計画	91
1	指導計画作成のための配慮事項	91
	(1) 特別活動の全体計画と 各活動・学校行事の年間指導計画の作成	91
	(2) 生徒指導の機能を十分に生かす	95
	(3) ガイダンス機能を充実させる	96
	(4) 道徳の時間などとの関連	97
2	内容の取り扱いについて	98
	(1) 学級活動・ホームルーム活動の取り扱い	98
	(2) 児童会・生徒会活動の取り扱い	98
	(3) 学校行事の取り扱い	99
3	国旗及び国歌の取り扱い	99
4	特別活動の指導を担当する教師	100
	(1) 学級活動・ホームルーム活動の場合	100
	(2) 学級活動・ホームルーム活動以外の場合	101
	付録1	103
	付録2	104
第8章	特別活動の評価	105
1	特別活動における評価規準	105
2	評価の困難さ	106
3	パフォーマンス評価	107
	(1) 「1年生を迎える会」の活動の評価例	108
	(2) 評価シートの作成	109
	(3) ループリックの作成	110
4	ポートフォリオ評価	111
	(1) 作品の記録の系統的な蓄積	111
	(2) ポートフォリオ評価の実践例	112
5	特別活動における評価のこれから	114

第9章 人間形成を支える諸理論	116
1 子どもたちの発達	117
(1) 自己意識	117
(2) 感情の発達	119
(3) 役割取得能力	122
2 子どもをとりまく人間関係	123
(1) ソーシャルスキルの発揮	123
(2) 仲間関係の発達	124
第10章 特別活動の新たな展開	126
1 多文化共生教育	126
2 アクティブ・ラーニング	129
(1) 協同学習の実践	130
(2) PBL (Problem Based Learning) 学習	131
(3) 受動的な学習から積極的な学習へ	131
3 ICTを活用した授業	132
4 予防的・開発的教育	134
(1) ソーシャルスキル・トレーニング	135
(2) ピア・サポート	136
(3) 構成的グループ・エンカウンター	136
資料	
学校教育法施行規則	140
学習指導要領【特別活動】	142
小学校学習指導要領比較対照表【特別活動】	157
中学校学習指導要領比較対照表【特別活動】	168
高等学校学習指導要領比較対照表【特別活動】	177
おわりに	186







## 第1章

### 人間形成と特別活動の教育的意義

.....

#### 1 特別活動という教育活動

平成20(2008)年3月改訂の学習指導要領において、特別活動はその目標として、児童生徒の望ましい集団活動を通して人間形成を図ろうとする教育活動であることが示されている。それは、小学校学習指導要領によれば「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」である。

また、中学校学習指導要領においても「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」と示され、高等学校学習指導要領でも次のように示されている。「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」。

特別活動はここでみるように、共通して望ましい集団活動を通して実

際の社会で生きて働く社会性を身に付けることをはじめとして、児童生徒の人間形成を図るための重要な教育活動として位置付けられているのである。まさに特別活動の第一の特質としてあげられることは、集団活動を通じた教育活動なのである。ここで言う集団とは、単なる遊び集団の意味ではなく、それぞれの集団においては活動目標があり、そこでの目標を達成するための方法をはじめ、目標達成のための筋道を、集団を構成する全員が考え、共有の目標の実現のために一致協力して実践していく集団としての特徴をもつ。

実際の学校における特別活動の集団活動は、各教科で一般的なスタイルである学級集団を単位とするのみならず、児童会活動、生徒会活動やクラブ活動、さらには学校行事の場合のように学級集団を超えて、学年集団、学校全体といった集団活動が展開される。ここでは、異年齢集団で行われる活動も特別活動がこれまで重要視している集団活動なのである。

児童生徒が、このような様々な集団に所属し、組織された集団活動を行うことを通して、より複雑で広がりのある人間関係のもとで生活経験の広がりや深まりをもつことを可能とするのが特別活動である。これらの活動は児童生徒に思いやりの心、共に生きていく態度、自己責任の自覚、自律・自制の心といった現代の教育にとって最重要課題の一つとしても掲げられている児童生徒に豊かな人間性を育むこと、さらには社会性を育むことに大きな役割を果たすものである。

いま一つ特別活動の特質をあげると、さきに述べた集団による活動は実践的な活動であるということである。すなわち特別活動は集団活動であるとともに、集団の実践的な活動でもあり、具体的、実践的な活動を中心として、一人一人の児童生徒の心身の調和のとれた全人的発達を土台として、個性の伸長を図り、社会性の育成を眼目とするのである。

ここでの実践的な活動とは、児童生徒が学級や学校生活の充実・向上を目指し、児童生徒自らの力で種々の問題や課題の解決に向けて具体的